I 学校教育目標「自分から 自分で 精いっぱい そして いっしょに」

5:そう思う 4:少し思う 3:どちらでもない 2:あまり思わない 1:全く思わない

	アンケート質問事項	前変年化	評価平均	5	4	3	2	1
家	お子さんは 学校へ行くのを楽しみにしている(自分から、自分で)	Δ	4.7	116	16	16	2	1
庭		R2	4.5	124	20	18	5	2
家	お子さんは 学ぶ場として 伊那養で精いっぱい取り組めている(精いっぱい)		4.5	112	20	7	2	0
廷		R2	4.5	119	29	15	3	2
家	お子さんは学校でみんなとかかわりながら学習や活動を楽しんでいる(いっしょに)		4.5	112	25	12	2	0
廷		R2	4.5	114	32	15	4	2
生	学校は楽しい	Δ	4.6	77	14	9	3	2
徒		R2	4.5	64	14	6	4	2
生	伊那養に入学してよかったと思っている	Δ	4.6	75	14	14	2	0
徒		R2	4.5	65	9	14	1	1
生	主 伊那巻に友だちがいる	Δ	4.6	81	13	8	1	2
徒	りが良に次につれても	R2	4.5	65	16	4	1	4
			4.3	77	71	16	2	0
貞	『自分から、自分で、精いっぱいそしていっしょに』の学校生活を送ることができている	R2	4.3	62	71	12	0	0
職学校グランドデザ			4.3	70	79	15	2	0
貞	児童生徒の願いや学びを支えるものとなっている	R2	4.3	69	57	19	2	0
外	子どもたちは、伊那養へ通うことを楽しみにしている	Δ	4.9	52	1	0	0	0
部		R2	4.6	141	47	24	0	0
外	 学校教育日標「白分から白分で精いっぱいそ」でいっしょに」は、伊那巻にあっている		4.7	54	9	0	0	0
		R2	4.7	193	43	16	0	0
	庭 家庭 家庭 生徒 生徒 生徒 職員 職員 外部 外部	家庭 お子さんは 学校へ行くのを楽しみにしている(自分から、自分で) お子さんは 学ぶ場として 伊那養で精いっぱい取り組めている(精いっぱい) お子さんは学校でみんなとかかわりながら学習や活動を楽しんでいる(いっしょに) 学校は楽しい 伊那養に入学してよかったと思っている 伊那養に友だちがいる 担任している児童生徒は『自分から、自分で、精いっぱいそしていっしょに』の学校生活を送ることができている 学校グランドデザインの重点目標や具体的取り組みは 児童生徒の願いや学びを支えるものとなっている オーチャー・ア・デザインの重点目標や具体的取り組みは ア・デザインの重点目標や具体的取り組みは ア・デザインの重点目標や具体的取り組みは ア・デザインの重点目標で見ないできている ア・デザインの重点目標で見ないのできびを支えるものとなっている オーチャー・ア・デザインの重点目標で見ないのできびを支えるものとなっている ア・デザインの重点目標で見ないのできびを支えるものとなっている ア・デザインの重点目標で見ないのできびを支えるものとなっている ア・デザインの重点目標で見ないのできないできている ア・デザインの重点目標で見ないできなができなっている ア・デザインの重点目標で見ないできないできないる ア・デザインの重点目標で見ないできないできないのできないできない。 ア・デザインの重点目標できないのでは、ア・デザインの重点目標できないできないできないできない。 ア・デザインの ア・デザイン ア・ディー・ア・ディー・ア・ディー・ア・デザイン ア・ディー・ア・ディー・ア・ディー・ア・ディー・ア・デザイン ア・ディー・ア・ディ	家庭 お子さんは 学校へ行くのを楽しみにしている(自分から、自分で) 年代 家庭 お子さんは 学ぶ場として 伊那養で精いっぱい取り組めている(精いっぱい) R2 家庭 お子さんは学校でみんなとかかわりながら学習や活動を楽しんでいる(いっしょに) R2 生 学校は楽しい △ 程 伊那養に入学してよかったと思っている R2 生 伊那養に友だちがいる △ R2 担任している児童生徒は『自分から、自分で、精いっぱいそしていっしょに』の学校生活を送ることができている R2 職 学校グランドデザインの重点目標や具体的取り組みは 児童生徒の願いや学びを支えるものとなっている R2 外 子どもたちは、伊那養へ通うことを楽しみにしている R2 外 学校教育目標「自分から自分で精いっぱいそしていっしょに」」は、伊那養にあっている R2 アと教育目標「自分から自分で精いっぱいそしていっしょに」」は、伊那養にあっている R2	アングート貝 同手項 集化 平均 家庭 お子さんは 学校へ行くのを楽しみにしている(自分から、自分で) 4.5 RE 4.5	アンケート見口手項 年化 平均 分 4.7 116 R2 4.5 124 4.5 124 4.5 112 R2 4.5 119 R2 4.5 119 R2 4.5 119 R2 4.5 119 R2 4.5 114 R2 4.5 64 R2 4.5 65 R2 4.5 R2 4.5 R2 4.5 R2 4.5 R2 4.5 R2 A.5 R2 A.	年代 事物 (日本) 4 (日本) 4 (日本) 4 (日本) 116 (日本) 16 (日本) 4 (日本) 116 (日本) 117 (日本) 112 (日本) 20 (日本) 4 (日本) 112 (日本) 20 (日本) 4 (日本) 119 (日本) 20 (日本) 4 (日本) 112 (日本) 20 (日本) 4 (日本) 114 (日本) 20 (日本) 4 (日本) 114 (日本) 20 (日本) <t< td=""><td> アンケート見口事項 年代 東始 7</td><td> アンケート見口手投 年代 平的 7</td></t<>	アンケート見口事項 年代 東始 7	アンケート見口手投 年代 平的 7

・【総合的に高い評価】学校教育目標「自分から 自分で 精いっぱい そしていっしょに」に対して、家庭、生徒、職員、 外部のすべての方々から高い評価をいただきました。特に今年度は、5つの項目で前年度を上まわりました。家庭や 外部の方々から「子どもたちは学校へ行くのを楽しみにしている」との評価を頂けることは喜ばしいことです。

・生徒自身の評価もすべての項目において昨年に引き続き4.5(9割)以上で、多くの子どもたちが「学校生活は楽しい」、「伊那養に入学して良かった」と充実感や手応えを感じていると思われます。これは、本校の学校教育教育目標、グランドデザインをふまえて児童生徒に合わせた「自分から自分で精いっぱい」取り組める生活づくりができているからと考えます。

・今年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、内容や方法に検討を加え「今できる内容」を「できる方法で」 実施できるように工夫してきた成果と思われます。引き続き感染症対策を行い、安全・安心を第一に考えながら、子ど もたちの生活や学習の充実を目指して取り組んでいきたいと思います。

・2:あまり思わない、1:全く思わないを選択している方がいることから、引き続き一人一人の子どもたちの姿を丁寧にとらえ、すべての子どもたちが「今日に満足し明日を楽しみに待つ」学校生活が送れるように考えていきます。

評価の受けとめと今後の方針

Ⅱ 学校のベース「人権・連携・安全・安心・防災」

5:そう思う 4:少し思う 3:どちらでもない 2:あまり思わない 1:全く思わない

		アンケート質問事項	前変年化	評価 平均	5	4	3	2	1
,	家	人権に配慮した支援がなされている	•	4.7	111	31	8	1	0
	庭	ストに「日は思めた人」及が、まてすがてい	R2	4.8	135	25	8	0	0
	生徒	困ったときに相談できる人(親・友だち・先生)がいる	Δ	4.6	78	13	11	2	1
			R2	4.5	62	16			
権	職品	 児童生徒に対する支援や対応は人権に配慮したものとなっている	•	4.2	69	75	14		_
・いじめ	員		R2	4.3	61	70	14		_
	家庭	いじめや体罰がない学校環境となっている	Δ	4.8	123	20		-	_
	庭		R2	4.7	133	24	-	- 1	-
	生徒	伊那養には体罰やいじめはないと思う	Δ	4.5	75	11	14	8 1 0 8 0 0 11 2 1 6 3 3 14 8 0 14 2 0 7 1 0 9 1 0 14 3 2 18 2 3 17 3 0 11 2 0 11 0 1 14 2 1 31 11 7 26 5 1 19 6 4 17 3 0 10 3 1 9 1 3 9 1 3 9 1 1 7 2 1 12 3 0 20 1 0 35 10 0 24 5 2 49 47 5 62 31 2 16 2 0 20 3 0 17 5 1	
			R2	4.2	50	16	18		1 0 0 0 2 1 3 3 8 0 2 0 1 0 0 1 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
	職員	児童生徒は、いじめや体罰のない学校であると感じている		4.4	95	51			
-			R2	4.4	68	66	11		0
チー	家庭	学校・部・学級の職員が連携して,子どもの支援に取り組んでいる		4.6	93	46		_	1
	庭		R2	4.6	122	29			1
<u>ــــــــــــــــــــــــــــــــــــ</u>	職員	伊那養は同僚とチームになって、指導・支援に向かえている	▼	3.8	41	76	31		7
· 連		伊那養は、非違行為のない、同僚性のある職員集団となっている	R2	4.0	43	72	26		1
携	職員		▼	4.1	63	74			
1/3			R2	4.3	62	65			0
_	家庭	担任とは、十分に連携でき、安心感・信頼感がある	▼	4.6	106	31			1
信頼関			R2	4.7 4.7	131	24		-	3
	家庭	学校は,家庭の思いに寄り添い,誠意を持って応えている	Бо		111	29			- 1
係			R2	4.7 4.3	137 66	21 85			- 1
IVIN	職員	家庭とは十分に連携できている(信頼関係が築けていると感じる)	R2	4.3	36	90			_
	-		RZ ▼	4.0	61	45		-	
	家庭	学校の施設・設備や遊具は安全で使いやすいものになっている	R2	4.2	80	55			
	職		N2	3.1	11	54			
安	順員	学校の施設・設備や遊具は安全で使いやすいものになっている	R2	3.2	8	44	62		
全	索	学校は、保護者や地域と連携して防災に取り組んでいる	T\Z	4.4	85	48	16		
<u>.</u>	庭		R2	4.4	92	51	20		
安心	<u> </u>	* 校内安全体制の確立							_
心・防災	職	・防災教育(避難訓練・引渡訓練等を含む)・施設設備管理、防災体制	Δ	4.2	56	87	17	5	1
	員	・支援の引継ぎ(担任間・部間等)・緊急時対応(アレルギー、摂食、医ケア等)	R2	4.0	33	82	28	3	0
		~学校GD: Ⅲ「学校生活づくりの充実」(2)安心安全な学校づくり~		1.0	30	JL		J	J
	職	* 災害時応援協定をもとに	▼	3.6	21	71	58	15	1
	員	│・防災備蓄品、福祉避難所のあり方研究 │ ~学校GD: IV「地域と連携した学校生活づくり」(3)地域と連携した防災の取組より~		0.7	00	00	F.0		,
		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	R2	3.7	23	63	56	4	1

計価の受けとめと今後の方針

・【人権・いじめ】生徒の評価項目である「困ったときに相談できる人(親・友だち・先生)がいる」と「伊那養には体罰やいじめはないと思う」の数値が9割をこえています。特に「伊那養には体罰やいじめはないと思う」は4.5で高い高い評価となっており、生徒達が安心して生活できている様子がうかがわれます。また「困ったときに相談できる人(親・友だち・先生)がいる」の設問に対して多くの子どもたちが、肯定的な回答をしています。

これからも「受け止めてもらえている感覚」を子どもたちが得られるように、日常の小さな関わりの積み重ねや肯定的、共感的な関わりを引き続き大切にしていきたいと思います。

・【人権・いじめ】職員の「児童生徒に対する支援や対応は人権に配慮したものとなっている」にかかわって、学校自己評価アンケートの記述に「適切な児童生徒の呼称(呼び捨て、あだ名、~ちゃん付等)」や「適切な関わり(適切な距離感、教師の言動)」について問題提起がなされています。本校の根幹である人権意識を再度確認するために、講演会や研修会の実施を検討していきます。

・【安全・安心・防災:施設・設備について】学校の施設・設備について、必要な修繕箇所についてはその都度、対応しています。古い校舎であるため老朽化も目立ちます。引き続き学校が安全・安心に過ごせる場であるように定例の安全点検はもちろん、日常から安全意識を高めて施設の管理を行っていきます。

Ⅲ 学校像1:様々な人といっしょに力を発揮し育つ学校 「学校生活づくりの充実」

- (1)学習指導要領に基づいた学校生活づくり
- (2)安心安全な学校づくり ※一部をⅡ学校ベース「安心·安全」項目へ

5:そう思う 4:少し思う 3:どちらでもない 2:あまり思わない 1:全く思わない

		5:そう思う 4:少し思う 3:どちらでもない 2:あまり思わない 1:全く思わない							
		アンケート質問事項	前変年化	評価 平均	5	4	3	2	1
個	家	- - 個別の指導計画には,子どもや保護者の願いが反映されている		4.7	106	33	11	1	0
別	庭	回がの指等可回には、JCもで体疫性の痕がが及びでれている	R2	4.7	124	35	7	0	2
指	家	個別の指導計画に沿って、日々の授業が実践されている		4.7	106	40	5	0	0
指導	庭		R2	4.7	119	43	4	1	1
計	職	個別の指導計画を元にした指導と評価 ~学校GDより~ ・自立活動の観点の明確化(何のために学ぶのか)	▼	3.9	41	85	30	9	0
画	員	・具体的な評価と説明責任(何が身についたのか)	R2	4.0	33	80	31	3	0
	家	部・学級の日課や授業内容はお子さんに合っている	Δ	4.6	96	42	13	0	0
	庭	即・子板の口跡で技業的合はの丁Cのに占っている	R2	4.5	107	96			
兴	家	友だちや先生と関わりながら活動できる学習や生活が工夫されている	Δ	4.7	111	30	9	1	0
学習	庭	及だりや九王と関わりなから占到できる子目や王治が王大されている	R2	4.6	118	37	9	2	1
内	生	伊那養の勉強や生活は自分のためになると思う	Δ	4.5	71	20	11	3	0
容	徒	がか後の心理で生活は日かのためになると心と	R2	4.4	56	16	15	2	1
Ъ	職	「生活を中心とした教育」 ~学校GDより~ ・子ども主体の教育活動(主体的な学び)・仲間や教師と共に学ぶ(対話的な学び)		4.1	51	89	21	3	2
	員	・チとも主体の教育活動(主体的な子び)・仲間や教師と共に子ふ(対話的な子び) ・その子らしい学びの追求(深い学び)	R2	4.1	38	84	23	1	0
	家		▼	4.3	83	44	21	3	
	庭	小→中→同の光度段階に心した子目や文振が傾か至ねられている	R2	4.4	98	44	16	6	3
坣	家	その社会生活につながる学習が展開されている		4.4	85	46	16	4	0
習	庭	何木の社会生活にフなかる子自が展開されている	R2	4.4	100	45	17	2	3
学習計	外	子どもたちは、自分なりの自立や将来につながる力をつけている		4.7	48	10		0	
画	部		R2	4.7	138	62	4	0	0
	職	年間指導計画(シラバス)の作成 ~学校GDより~ ・教科指導内容との関連性(何を学ぶのか)・活動の位置づけ、工夫(どう学ぶのか)	▼	3.7	24	88	40	14	0
	員	・ねらいの明確化(何ができるようになるのか)	R2	3.8	22	76	44	5	0
	家	担任は、お子さんを理解し、特性に応じた支援をしている	▼	4.6	108	33	9	1	0
	庭	担任は、の子でのと理解し、特任に心じた文族をしている	R2	4.7	130	29	6	1	2
孑	生	担任の先生は 自分のことをわかってくれる		4.4	71	14	12	3	5
子ども理	徒	担任の元王は、日力のことをわかってくれる	R2	4.4	57	21	5	3	4
ŧ,	外		Δ	4.7	52	7	4	0	0
理	部		R2	4.5	160	60	21	5	2
解	家	学校は、保護者のニーズに応える講演会や研修会などを企画している	Δ	4.4	80	43	25	3	0
•	庭	子校は、休護有の――人に心える語典会や研修会などを正画している 	R2	4.3	91	42	24	4	2
研 修	職	特別支援学校の専門性向上 ~学校GDより~ ・支援の専門性向上(児童生徒理解、OJT、研修)	•	3.9	39	86	35	4	2
	員	・校内教育支援委員会の機能化(就学、支援) ・自立活動チームとの連携(個別の指導計画、研修) ・支援の連携(担任間、部とグループ、本校と分教室)	R2	4.0	33	82	28	3	0
	L.,	【一人の一方、「一」(「一」(一)、「一」(一)(「一)(一)(一)(一)(一)(一)(一)(一)(一)(一)(一)(一)(一)(一		 					

評価の受けとめと今後の方針

・【学習内容】家庭の評価項目「部・学級の日課や授業内容はお子さんに合っている」と「友だちや先生と関わりながら活動できる学習や生活が工夫されている」が4.5(9割)超えの高い評価を頂きました。また生徒の評価項目「伊那養の勉強や生活は自分のためになると思う」も4.5(9割)に達しています。

学校教育目標「自分から 自分で 精いっぱい そして いっしょに」の具現化に向けて一人一人の子どもたちに合わせた学習や支援が用意され多くの子どもたちが充実した生活と学びを積み重ねることができたと考えます。

・【個別の指導計画を元にした指導と評価、年間指導計画(シラバス)の作成】本年度から「学びの改革」として県が進めている個別の指導計画の書式の統一とシラバスの作成に取り組んでいます。これは個別の指導計画の様式を統一することによる、児童生徒一人一人に対する指導の質の向上や連続性の確保がその目的です。

評価の数値から、職員は新しい事への取り組みに若干の戸惑いを感じているようです。しかし学習内容に関わる家庭と生徒の評価は4.5(9割)を超え、高い評価を頂いていることから、取り組みの成果が現れていると考えます。一人一人に応じた指導の充実ができるように、引き続き取り組んでいきます。

Ⅳ 学校像2:地域といっしょに歩む学校

「地域と連携した生活づくり」

- (1)インクルーシブな教育の推進
- (2)地域とのさらなる連携
- (3)地域と連携した防災の取組→Ⅱ「安全・安心・防災」項目へ

5:そう思う 4:少し思う 3:どちらでもない 2:あまり思わない 1:全く思わない

_		アンケート質問事項	前変年化	評価 平均	5	4	3	2	1
分教			Δ	4.0	38	22	31	5	2
	庭	地域や設置校と連携した教育を行っている	R2	3.7	40	27	62	2	5
教	職	分教室での教育の充実 ~学校GDより~ ・分教室の施設設備(はなもも第2教室など)	▼	3.6	24	81	43	15	3
	員	・分教室と設置校の連携推進・分教室と本校の連携推進(児生交流、職員交流)	R2	4.1	40	77	26	2	0
=			Δ	3.5	33	27	61	15	6
一一一一一	庭	地元校での存在感や仲間とのつながり、交流活動は充実してきている	R2	3.4	35	25	76	5	14
副学籍	家	 交流校(西箕輪小・西箕輪中・長谷中・上農高)との交流活動は充実している	Δ	3.8	28	42	27 62 2 81 43 18 77 26 2 27 61 18 25 76 8 42 39 6 46 55 4 78 46 8 77 32 4 43 23 6 41 25 4 14 2 6 74 19 4 12 0 6 67 22 4 77 45 8 71 38 2 83 18	6	2
-	庭		R2	3.7	36	46	55	4	5
交流	職	副学籍制度の充実、地域校との交流 ~学校GDより~ ・交流の充実と啓蒙推進	▼	3.8	33	78	46	8	1
流	員	・地域での学びの場としてのあり方	R2	3.9	32	77	32	4	0
	家			4.4	84	43	23	0	1
	庭		R2	4.4	95	41	25	4	0
	外	伊那養は、地域(諸機関や人々)と連携して、子どもたちへの教育や支援ができている	Δ	4.7	48	14	2	0	0
طالا	部	かか良は、20次(品版例でパペ)と建房して、」といたり、00次日で又版ができている	R2	R2 4.5	161	74	19	4	0
地 域	外	伊那養は、上伊那での特別支援学校のセンター的な役割を果たすことができている	Δ	1.0	12	0	0	0	
連	部	D MEDICAL TO ME COSTA MARKET TO THE COSTA	R2	4.5	168	67	22	4	0
携		かみとくれんを中心とした地域資源との連携強化 ~学校GDより~	▼	▼ 3.9 38 77	45	5	1		
	員	・研修会の企画、運営 ・他校や他地域との連携 ・医療や福祉、行政との連携	R2	4.0	36	71	38	2	0
	職	 学びの場の連続性 ~学校GDより~	•	4.0	43	93	28	1	1
	員	・就学相談、教育相談、支援会議の充実・巡回相談の充実(センター的機能)	R2	4.2	42	83	18	1	0
	家	学校からのお便りやホームページ等で,学校の様子が伝わっている		4.6	101	41	6	2	1
地域資源	庭	子校がらのお使りや小一ムペーク寺で、子校の株子が伝わりている 	R2	4.6	115	38	9	1	2
	家庭	 地域のボランティアを教育活動に活用している(伊那養サポーター制度)	Δ	4.1	62	46	42	0	1
	庭	でる。シャ・ファン・コンでは日内は115万川している(1777年度)が、 ノー 門及/	R2	4.0	66	46	42	5	3
	職	地域資源の活用 ~学校GDより~		3.8	28	82	44	12	0
	員	・地域で学ぶ、地域と学ぶ、地域への発信	R2	3.8	25	70	46	5	0
	-				22.1				

・【分教室】家庭の評価項目である「分教室は、地域での存在感や同世代の仲間とのつながりを築き、地域や設置校と 連携した教育を行っている」の分教室の質問に対して無回答の方が一定数います。これは、分教室の状況がよく分か らないので評価が難しいという評価でもあると考えています。

・職員の評価項目である「分教室での教育の充実」はコロナ禍により行事が中止となったり内容が縮小されたりすることが多く、分教室と本校とのつながりがコロナ以前に比べて希薄になっていることが影響していると考えます。分教室と本校とのつながりを意識できるように、リモートによる交流や職員の交換研修など、できることを実施していきます。

- ・来年度は上伊那農業高校内にある高等部中の原分教室の10周年記念式典を行う予定です。学校のHPを活用するなど、より一層の情報発信ができるようにと考えています。
- ・【副学籍・交流】家庭からの評価は昨年度に引き続き4.0(8割)をこえる高い評価を頂いています。これからも手紙等の紙面交流やリモートなどの方法を用いながら交流を進めていきたいと思います。
- ・【地域連携】外部の評価項目が4.5(9割)を超える高い評価を頂きました。これからも新型コロナウイルス感染症対 策を行いながら、WEBを用いた会議や研修会など内容や方法を検討し、工夫して実施していきます

評価の受けとめと今後の方針